

勝海舟記念館 特別展

第3回収蔵資料展
守り伝える海舟の

歴史遺産

2025年7月11日(金)～11月9日(日)

大田区立 勝海舟記念館

Ota City Katsu Kaishu Memorial Museum

- 開館時間 午前10時～午後6時
※毎週月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始は休館
9月8日(月)・9日(火)は一部展示替えのため休館
- 入館料 一般300円、小中学生100円(各種割引有り)
- 所在地 東京都大田区南千束2-3-1
- 電話 03-6425-7608

※最新の情報は、区ホームページをご覧ください。



勝海舟記念館特別展 第3回収蔵資料展

守り伝える海舟の歴史遺産

2025年7月11日(金)～11月9日(日) ※9月8日(月)・9日(火)は一部展示入替のため休館

当館は皆様からのご寄附を活用し、勝海舟に関する貴重な資料の収集・修復を行い、展示等を通じて調査研究の成果を公開しています。この取り組みをより多くの方々に知っていただきたく開催する本展は、今年で3回目を迎えます。

今回は、下に掲げた3つを含む海舟の新たな側面や知られざるエピソードを、15点を超える資料から紐解きます。

長い年月を経て、現在に受け継がれてきた資料たち。それらを将来に守り伝えていく当館の取り組みと、資料がもつ魅力をぜひご覧ください。

※本紙背面に引用した大砲の図は、展示資料〔砲術演習図〕内にみることができます。

新

海舟と「テレカラフ」

長崎海軍伝習生に選抜される直前、海舟は公務として「テレカラフ」(有線電信)の実験に従事していました。これは日本人の手による初の電信実験と評されます。

幕臣の先輩である大久保忠寛(後の一翁)からの手紙には、海舟の電信実験拝命への所感や、海舟門弟の砲術操練準備に対する意見が記されています。



大久保忠寛書状(勝海舟宛)(部分)
安政2(1855)年6月9日付

新

勝伯爵家のはじまり

明治20(1887)年、海舟は明治政府によって華族に列せられ、伯爵の爵位が授けられました。

その際の詔書である爵記と、これを納めていた文箱と共に展覧し、海舟授爵時のエピソードをご紹介します。

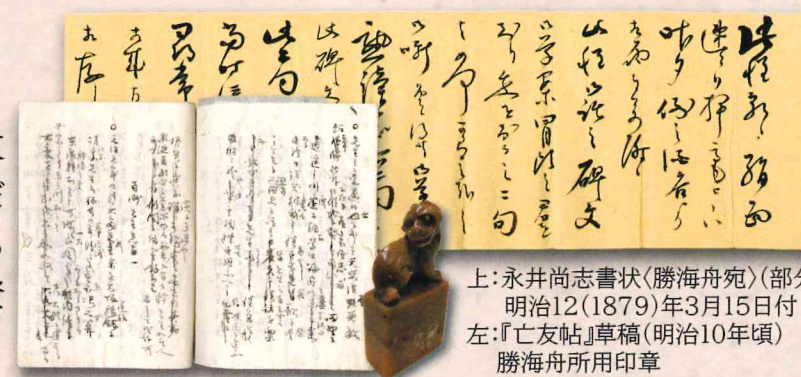


左:爵記(明治20年5月9日)
右:黒漆塗菊花紋蒔絵文箱(明治時代)

新

亡友追想の目々

明治時代、海舟は幕末以来の亡き知友を追想する日々を送りました。海舟が編んだ『亡友帖』の草稿や、洗足池畔に現存する「南洲留魂詩碑」の碑文作成にまつわる資料を、前・後期に分けて初公開します。



上:永井尚志書状(勝海舟宛)(部分)
明治12(1879)年3月15日付
左:『亡友帖』草稿(明治10年頃)
勝海舟所用印章

ギャラリートークを8月16日(土)、10月19日(日) 14時から開催します！
ご予約不要で費用は入館料のみ。1階受付前にお集まりください。

グッズやイベント等の最新情報は、ホームページをご覧ください。

